

平成30年教育委員会第5回定例会会議録

開会日時 平成30年 5月15日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時54分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一
同職務代理者 齋藤 初夫
委 員 塚 本 亨
委 員 天 宮 久嘉
委 員 日 高 芳一
委 員 大 里 豊子

議場出席委員

・教育次長	駒井 亜子	・学校教育担当部長	杉立 敏也
・教育総務課長	鈴木 雄祐	・学校施設課長	若林 繁
・学校施設整備担当課長	杉谷 洋一	・学務課長	神長 康夫
・指導室長	和田 栄治	・学校教育支援担当課長	須子 賢一
・統括指導主事	塩尻 浩	・統括指導主事	大川 千章
・地域教育課長	山崎 淳	・放課後支援課長	生井沢 良範
・生涯学習課長	加納 清幸	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

書 記

・教育企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 齋藤 初夫 委員 塚本 亨

以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開会時刻 10時00分

○**教育長** おはようございます。それでは、出席委員数が定足数に達しておりますので、平成30年教育委員会第5回定例会を開会いたします。

本日の議事録署名人は私に加え、齋藤委員と塚本委員にお願いしたいと思います。

それでは、議事に入ります。

本日は、議案等はありません。報告事項2件です。

それでは、報告事項等1「平成30年度教育研究指定校等の決定について」説明をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** 「平成30年度教育研究指定校等の決定について」報告いたします。紙面のように指定校が決定いたしました。

研究指定校については、今年度研究2年次を迎える学校につきましては、飯塚幼稚園、堀切小学校、二上小学校、小松南小学校、亀青小学校、青戸小学校、清和小学校、中之台小学校、綾南小学校、白鳥小学校、中青戸小学校、東柴又小学校、幸田小学校、中学校は金町中学校、立石中学校の14校1園となっております。

また、新規は資料のとおり13校1園が教育研究指定校に加わりました。

裏面のグループ研究につきましては2グループとなっております。

学校図書館を活用した授業実践モデル校は、小学校2校、中学校1校となっております。

東京都の指定による研究校は資料のとおり、東京都人権尊重教育推進校は小学校1校、オリンピック・パラリンピック教育アワード校は小学校4校、中学校2校、コーディネーショントレーニング地域拠点校は幼稚園1園、アクティブライフ研究実践校は小学校1校、スーパーアクティブスクールは中学校2校、道徳教育推進拠点校は中学校1校、持続可能な社会づくりに向けた教育推進指定校は小学校1校、プログラミング教育推進校は小学校2校となっております。

かつしか教育プラン2014の推進に向けて、各学校、幼稚園に対しては組織的、計画的な研究を進められるよう指導・助言をしております。さらに研究の成果が各幼稚園、小学校、中学校へ広がり、実践化されるよう発表の機会を設けてまいります。

また、区の教育研究指定校として過去5年間研究を行っていない学校は小学校5校、中学校6校となっております。今後も教育研究指定校を受け、校内で一つのテーマを決めて、組織的に研究することが教員の授業力向上、児童・生徒の学力向上と成果につながるよう指導・助言をしております。特に11校につきましては、来年度に向けて、指導室より指導・助言を行ってまいります。

以上でございます。

○教育長 それでは、ただいまの報告について、何かご質問等はございますでしょうか。

齋藤委員。

○齋藤委員 学校図書館についてですけど、上平井中学校は去年、研究発表をしていただいて、非常によかったと思います。いろいろな学習センター的なメディアセンターになったり、いろいろな勉強ができるように調べ学習をしたり、図書館の活用をすごくしていただいた。それがうまくいったのは、学校司書、図書司書がいてくれて、少し余分に時間があって、いろいろな時間がたくさんとれて、いろいろな取組みをしていただいたことがよかったと言っていました。現在、司書については増やす方向でやっていただいています、現状について教えていただきたいと思います。学校図書・司書の状況はどうなっているのでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 基本的には12時間というのがありまして、この学校図書館を活用した事業実践モデル校については24時間の配置としたということでございます。

○齋藤委員 何校ぐらいですか。

○指導室長 全校です。

○教育長 12時間というのは全校ですよ。24時間というのは3校ですね。

○指導室長 この3校がモデル校として12時間加えたもので合計24時間やっております。

○齋藤委員 24時間というのは3校しかないということですか。

○指導室長 そうです。

○教育長 そうすると24時間を5日で割れば4～5時間ということですね。大体モデル校は毎日いるような感じですね。

○齋藤委員 司書をつけるときの予算というのはどういうつけ方をしていますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 これは葛飾区でつけてございまして、都で全部つけるということは特にございません。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 そうしたら、モデル校の24時間を葛飾区がプラスしているということですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 はい。

○齋藤委員 効果があったと思うので、ぜひ司書は充実する方向でさらに検討していただいて、予算の絡みがあると思いますが、充実していただく方向で取り組んでいただければと思います。よろしくをお願いします。

それからもう1点、研究指定校の発表の日がありますよね。その中で、質疑をしている学校としていない学校があったと思います。やっぱり質疑していただいてやりとりがあったとき、

その人だけではなくて、その人の質疑を聞いてほかの人も思っていたことが、「あ、そういう事情があったのだな」とか、私たちが聞いていてかなり勉強になるので、質疑という時間はぜひ入れていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 基本的にはそのようにすることがいいと思いますので、各学校にそのように伝えていきたいと思います。

○齋藤委員 ぜひ伝えていただきたいと思います。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 今、齋藤委員がおっしゃったのですが、私もこの研究指定校、特に継続して2年目に入った学校と新規の中で、1点伺いたかったのは、今まで77園・校に対して未実施が11校あります、これには引き続き指導室のほうから働きかけをお願いしたいと思います。やはり研究発表指定をされますと、教員の方たちのスキルアップの状況が垣間見られます。当然ながら授業を公開して、各校から教員の方々、保護者の方が見る。それに向けて主任の方を中心として教科毎の研究を行い、発表を仕上げるというのは、特に中間管理の職員の方と協働することにより若手が育成できるという意味でも非常に大事だと思います。

あと、未実施の11校の雰囲気がありましたら教えてください。私の経験からいきますと、研究指定校で教科に特徴が出てきているのかなと思います。今までですと算数、国語とか、そういった部分を中心に行われていたのが、外国語を継続しているところもございまして、新規のテーマを見ますと気になったのは人権、あるいは道徳が増してきている。そういった意味でも、もちろん教員のスキルアップもさることながら、これからの学校全体がよくなるということで、研究発表指定の機会はずいぶん。特に私の記憶では、都内でもこれだけ熱心に研究指定校の研究発表の授業をなさっている地区は少ないと思います。

それだけやはり葛飾のいわゆるかつしか教育プランに基づいた影響力、あるいは授業力の向上ということによって良いことだと思いますし、ひいては子どもたちが入りますので、そういった意味では、お願いとしては未実施の11校に積極的な働きかけをしていただきたい。ここ大変ですけども、そういうようなことが一応今思った雑感です。

ただ、もう一つ、グループ研究で興味深いのは、先進区である石川県の教育視察グループで、小中連携における学力向上に向けた実践的研究、これをまたどうやって公開になってくるのか。石川、秋田、その辺が大体学力テストでも上位ランクの県ですので、その辺どういったものを現場の先生方が視察をして得てきて、それを反映するのかなと、ちょっと楽しみにしております。

以上です。

○教育長 指導室長。

○指導室長 先ほども申し上げましたけれども、11校につきましては、来年度に向けてこちらから研究を進めるよう指導していきたいと思っております。

その他の研修につきましても、その成果をこちらで還元した上で、いいものはどんどん周知していきたいと思っております。

○塚本委員 よろしく願いいたします。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 毎年これだけ多くの学校が研究発表をするというのは素晴らしいことだと思います。科目もいろいろですし、まさに葛飾の校長を初め、教員の皆さんのやる気を非常に感じますけれども、裏面の「持続可能な社会づくりに向けた教育推進指定校」、これはいわゆる小池都知事がよく言う、サステナビリティとかいう感じのものです。具体的にどういうことですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 これは一言で言うと環境教育になるかと思います。ですから、自然環境や地域、地球規模等の諸課題について研究をしていくということになります。

○天宮委員 わかりました。

○教育長 よろしいですか。大里委員。

○大里委員 先ほど齋藤委員もおっしゃったのですが、私も学校図書館について、昨年2校で非常に成果が出ていたと思います。それが継続され、さらに新規で1校増えたことはうれしく思います。司書の勤務時間が週12時間のところ、モデル校については24時間ということで、せっかく増えて、子どもたちも多分それになれたと思います。その研究が1年で終わってしまって、また司書の勤務時間が減ってしまうと、子どもたちとしても、「ああ、きょうも司書の先生がない」ということになると思いますので、これが継続されることは非常によいことだと思います。翌年がどうなるかというところが非常に気になっていましたので、今年また続いてよかったなと思います。この先がまた非常に気になっているところです。

東京都の研究指定校も見ると、引き続きの学校が多いように思うのですが、こちらは何か研究期間の指定とかあるのでしょうか。

○教育長 東京都の継続というのは、例えば。

○大里委員 コオディネーショントレーニングの北住吉幼稚園は、昨年度研究発表がありました。あとオリンピック・パラリンピック教育も同じ学校が続いているのではないかなという印象です。

○教育長 指導室長。

○指導室長 こちらにつきましては、都の狙いによりまして、期間はそれぞれかとは思いますが。その研究によって違っておりました、全部把握していないのですけれども、オリンピック・パラリンピック教育アワード校、これにつきましては、オリンピックまで取組みを続けるのではないかなと思います。

○大里委員 継続ですか。

○指導室長 細かいところはそれぞれによって違ってきます。

○教育長 大里委員。

○大里委員 もう1点よろしいでしょうか。新たにプログラミング教育推進校というのが加わっています。こちらは小学校2校というのは、指定があるのでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 都で何校かのうち2校が指定されました。

○大里委員 葛飾区では2校。これは何か具体的な説明がもう少しあるとわかりやすいです。

○教育長 どんなことをするのか。プログラミング教育を導入しているのも、これからやってくれといたのは小学校です。なので、そこがモデル校で指定されたけれども、その内容はどんなことをやるのか。

指導室長。

○指導室長 一応、支援団体、それから企業と小学校との効果的な連携を推進する。そのためにプログラミング教育推進校を設置するというので、一応これにつきましては2年間です。それは企業と学校の内容をすり合わせるようなこともあるかと思えます。

○大里委員 わかりました。

○教育長 塚本委員。

○塚本委員 今お答えいただいた支援団体はもちろん大事だと思いますが、プログラミング教育、何日間、何週間かけて行うのでしょうか。新学習指導要領に基づいたプログラミング教育をなさっているというニュース映像で、IT企業を利用したり、かなりハイテクな部分でやっている映像を見たことがあります。それは企業からハードウェアなのかソフトウェアか、何らかのそういうものをお借りしての授業になってくるのですか。要するにプログラミング教育に対しての支援する団体があり、また企業のサポートがあるというお答えなのですが、実際プログラミング教育をなさっていく上で、机上では何もできないと思います。そういう機材がそろった中で、活用・実践していくという理解でよろしいですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 細かな学校での研究内容については理解しておりません。

○教育長 よろしいですか。プログラミング教育と聞くと、どうしてもコンピュータというイメージがあるけれども、そうではなくてプログラミング的思考を育てるということです。要す

るにもの考え方。恐らくこの2校もそういうところから入っていくと思います。

日高委員。

○日高委員 この2年次の研究、1年次の研究、大変多くの学校です。これはもっと誇りを持って宣伝してもいいのではないかと思います。しかもここ数年、どんどん増えてきています。これは大変な努力が現場でもあるし、それから教育委員会の努力もある。両方あわせ持ってこれだけの数の研究を進めているわけですから、大いに自信を持っていただいてもいいのではないかと思います。

そこで質問ですが、限りなく予算は幾らでもつきますよというわけにはいかないと思います。限られた予算の中から恐らく配分していくような形になっていると思いますが、1校当たりどれぐらいの予算をつけているのでしょうか。研究奨励のための予算というのはどれぐらいかわかりますでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 手元にないのでわからないので、この後、確認しておきます。

○日高委員 わかりました。恐らくこれだけの数ですから、大変な予算にはなると思います。もちろん冊子をつくったり、中にはその研究のために機器を導入したり、結構な予算を使っています。それを見ると、やった学校はやった学校で区から予算化がされているということで、非常に利益の部分もあるのではないかと考えています。

そういう中で一つ、金町中学校ですが、2年目研修で、「アンダーアチーバー0を目指して」、これはどういう教育ですか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 こちらは学力テストを行いまして、アンダーアチーバー、要するに学力が低い生徒を割り出すことをしまして、定期考査前を中心に授業でその子を重視したり、それから学習に向けての意識づけを行うということです。ですから、個別にそういう子たちに対応していく授業をしているということです。

○日高委員 なるほど。ありがとうございます。以上です。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

大里委員。

○大里委員 さっき日高委員がおっしゃった予算に関してですが、たしか前に伺ったときは10校分の予算で、昨年ですと14校1園でしたか、割り当てているというお話だったと思います。金額までは覚えていませんが。

なので、研究校が増えた分、予算もぜひ増やしていただきたいというところが希望です。これだけ多くの研究校があるということは大変うれしいことだと思います。実際に授業研究をすると子どもたちも非常に伸びると思います。東京都や全国の学力調査の結果にあらわれている

学校が多くあると思います。あと研究の教科だけでなく、ほかの教科にもやり方というか成果が広がっていくといいと思いますので、ぜひともお願いしたいと思います。

○教育長 よろしいですか。たしか10校分しか予算ないですよ。手を挙げると10オーバー。普通は切ります。でも、せっかく学校がやる気になっていますから、やりたいところは全部やらせようということで、1校あたりは少なくなっていると思います。

○大里委員 そうですね。

○教育長 そのほかよろしいでしょうか。ほかにありますか。

それでは報告事項1を終わります。

引き続きまして、報告事項2「平成30年度葛飾区立小学校English dayの実施について」報告をお願いします。

指導室長。

○指導室長 「平成30年度English dayの実施について」報告いたします。

今年度より葛飾教育の日に全ての小学校で「English day」の実施をしております。2020年度、オリンピック年です。小学校外国語教育の教科化に向け、今年度より移行期間となります。小学校における外国語教育では、中学年から聞くこと・話すことを中心とした外国語活動を通して、外国語になれ親しみ、外国語学習へ動機づけを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて、段階的に文字を読むこと及び書くことを加えて、総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることが求められています。

これまで高学年の外国語活動では大きな成果を上げており、教科として学習する前に外国語によるコミュニケーションを体験することは大きな意味があります。そこで学習指導要領の先行実施に伴いまして、学級担任が新学習指導要領に応じた内容で小学校3・4年生は外国語活動を年間35時間、小学校5・6年生は外国語を年間70時間実施いたします。

そこで、今年度から取り組むEnglish dayは、葛飾教育の日に年間1回、第3から第6学年の全学級で外国語活動及び外国語、英語の授業を1時間公開することとして、地域、保護者へ取り組みを周知するとともに、教育課程の円滑な実施をすることを目的としており、取り扱う教材は「Hi friends!」「We can!」「Let's Try!」「Welcome to Tokyo」及び葛飾区独自教材の「We Love Katsushika」から必要な内容を実施することとしております。また、外国人英語指導補助員（ALT）の派遣日となっている学校は有効に活用することができることとなっております。

以上でございます。

○教育長 それでは、ただいまの報告について何かご質問はございますでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 指導室長がおっしゃった高学年で年間通して70時間と申しますと、既存の中で新

学習指導要領の完全実施に向けて、いわゆる授業時間の配分に多分現場でご苦労があらうと思うのが1点と、あと道徳という部分も既に入ってきてございますので、現場からコマをつかって予算を得るのに大変苦労しているとか、何かそういった部分があれば進捗状況を教えてください。

○教育長 時間の確保ですね。

指導室長。

○指導室長 基本的にどこの学校も時間割の組み方については大変苦労していると思います。あとはEnglish dayについては土曜日にやりますので、そこで時間を確保することで授業時数が増えているということは聞いております。

○教育長 よろしいですか。

○塚本委員 非常に画期的だと思いますから、指導室のほうから連携しながら、学校教育の現場が上手にいくようにお願いいたします。

○教育長 授業時数の確保ですね。

齋藤委員。

○齋藤委員 既に堀切小、金町小、上小松小は実施しているわけですがけれども、実施した状況はどなたか行かれていると思います。私はちょっと行けなかったのが本当に残念ですがけれども、その取組みについてどのような状況だったか、状況を教えていただければと思います。

○教育長 学校教育担当部長。

○学校教育担当部長 堀切小学校で実施された4月21日の3年生の部分について見てまいりました。ALTの外国人の先生がいて、担任の先生も一緒にやります。担任の先生で2、3回日本語が出てしまったことはありましたけれども、基本的には担任の先生も外国人の方も英語で通しています。児童・生徒も非常に元気で、手が活発に挙がっていました。私が思っているより小学校3年生でこんなにいけるのかなというぐらいでした。単に単語ではなくて、ちょっと文章になっていたり、非常にいい雰囲気活発に英語の授業が行われているという感想を持ちました。

○齋藤委員 ありがとうございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

日高委員。

○日高委員 ALTですがけれども、これはどこに契約されていますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 ハートコーポレーションというところです。

○日高委員 これは各学校に全員配置できるだけの数をお持ちのコーポレーションでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 配置しているとおりでございます。

○日高委員 こういう派遣会社はしっかりしないといけない。外国の方は、日本のマナーを知らないことがあるため、休暇のとり方などしっかりと指導する必要があります。コーポレーションでもそうした指導を、生活指導の徹底をしていると思います。ぜひそのあたりのチェックはされておくといいと思います。

それから、ALT、さまざまな人がいるわけですが、地域の人材活用という視点でもやっついていかないと、担任もご苦労が大変多いと思います。地域の人材活用です。あるいはそういう英語活動を展開できるための人材バンクをちゃんと作ったりするようなことも大事な一つの視点だろうと思います。そういう現実には先取りしてやっている学校というのはありますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 一之台中学校と中之台小学校が外国人とJETという人材を使っているという事例はあります。

○日高委員 一之台中と中之台小は非常に生活の面でもいろいろな交流をされていますね。今度もダンスか何かでそうした計画の授業もあるようですけれども、限りなくそうした点でもこのEnglish dayに近いような感じでいろいろな交流を持って、英語になれ親しむということのほうが発展していくのではないかと期待しております。以上です。

○教育長 ご意見ということで、そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 このEnglish day、1学期から3学期まで各学校において組まれていますけれども、やはり正式に始める前に1回でも公開するというのはいいことではないかと思っています。

また、ALTの人もそんなに大勢いるわけではないので、担任の先生がやるわけです。それを公開するというのは担任の先生方にはちょっとしたプレッシャーになるでしょうけれども、それはぜひ乗り越えてやっていただきたいと思います。

以上です。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

大里委員。

○大里委員 私は、2月か3月の葛飾教育の日に小学校を見に行きましたところ、既に3年生の教室で英語活動をやっていました。子どもたちは非常に楽しそうに授業をやっていて、たしか「I like 何々」と果物か野菜か何かを入れるような内容でしたけれども、大きな声で話していました。

中学校の校長先生のお話で、学年が上がるにつれて英語に対する苦手意識を持つ生徒が増えるというお話を聞きました。特に会話というか話すこと。発音は自分を振り返ってみてもそう

ですけれども、やはり話すことに対する抵抗感がありますので、小学校の低学年のうちから英語に親しんで、抵抗感をなくすということはいいことと思います。

○**教育長** ありがとうございます。よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。

それでは、報告事項2について終わります。

そのほか何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

齋藤委員。

○**齋藤委員** 先日、プレゼンが1週間ありました。私は担当していなかったですけれども全部読ませていただいた。非常によかったのは柴原小学校で、この間の土曜日の公開のときには、柴原小学校に行ってみようと思って行かせていただきました。授業を見て、その後、校長先生、副校長先生にいろいろ教えていただきましたけれども、やはり成果が出ているところは、肩に力が入ってはいなかった。自然ですけれども、きちんと取り組みを具体的に組みこんでいたということを感じました。

私としては、いいところについては他の学校でもみんなこういうふうに行っていたと情報を共有して、ぜひ葛飾全体の学力を上げるために活かしていただければという思いで帰ってきたので、感じたことを少し申し上げたいと思います。

実は私もよく知りませんでしたけれども、東京都の学力テストが7月にされるということと言われました。5年生が7月でしたかね。それでどういう試験をやるのか、中身はよくわからなかったですけれども、その話を聞きましたら、実は4年生のものを7月にやるというお話で、柴原小学校はいろいろな機会で行っているでしょうけれども、たまたま行ったときに授業の中で「チャレンジタイム」というのをやっていました。

チャレンジタイムは何かというと、ベーシックドリルを5年生のクラスで4年生のベーシックドリルをやる。4年生のベーシックドリルをやっているが、教師と、それから公開の日ですから親も来ている。ドリルをやるのには親も教師もみんなにぎやかにというわけでもなく、また騒いでいるわけでもないが、子どもたちの立場で個別教育みたいになっている。それぞれが教えたり、親が教えたり、先生が教えたりと、マンツーマンみたいな形になっていた。4年生のドリルをマスターしようということを、この4月、5月、6月で行っている。そして7月の本番の試験を迎えている。

ですから、その具体的な形がいいとかではなくて、やっぱり具体的にそうやって手だてをして、7月の試験、学力テストを迎えるような仕組みをつくっている。

それから「普段はどうしていますか。」と聞きました。たまたま副校長が小松南から見えて、小松南もよかったので小松南のことも聞きました。小松南はいろいろな学力向上の委員会とか仕組みをつくって、みんなで頑張っているというのが印象だったけれども、柴原はそういう組織をつくっているわけではなく、一人一人の教師がとにかく教科書は全てその学年で、3学期

になって詰め込むのではなく、1年間のスケジュールできちんと教えようということ、学校を挙げてチームとしてやっているのです。うちは組織をつくっていないけれども、そうやって取り組んでいますという基本的な姿勢があって、その上に7月の学力テストに向けてのさっき言ったような取り組みがされているということなので、目に見える取り組みがされているのだなということを感じた。ぜひそういうことをほかもやっているのかもしれないけれども、そういうメリハリのある取り組みが必要ではないかなと感じました。

それから、学校全体の雰囲気がよくまっていると思うのは、たまたま行ったときに1年生がフィールドワークというのをやっていました。学校公開の日を使ってやっていて、校長先生もそこに出ていたし、教師もちろん出ているのですけれども、地域のボランティアや、そのほかに学校公開ですから親が来ていまして、親も一緒になって地域のまちを歩いているのです。ですから、非常に安全もあるし、和気あいあいとして教師と地域と子どもたちが一体となって、1年生のときにそういう雰囲気を子どもたちが持ってくれているという取り組みもよかったと思うので、勉強する環境づくりもよかったし、具体的な取り組みもよかったので、必然的にそういう結果が出ているのではないかと感じましたので、ぜひそういうのを参考にさせていただいて、ほかの学校もいろいろ取り組んでいると思いますが、いろいろなところで得た情報をほかの学校にも流しながら、こういう取り組みもあったよということで、ぜひ葛飾全体で学力向上に向けての取り組みを行っていただきたいと感じましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長 ありがとうございます。そのほか、何かございますでしょうか。

では、今の件、よろしくお願ひします。

よろしいでしょうか。それでは、これをもちまして平成30年教育委員会第5回定例会を閉会といたします。ありがとうございます。